

柳河style ～小堀割のある暮らし～

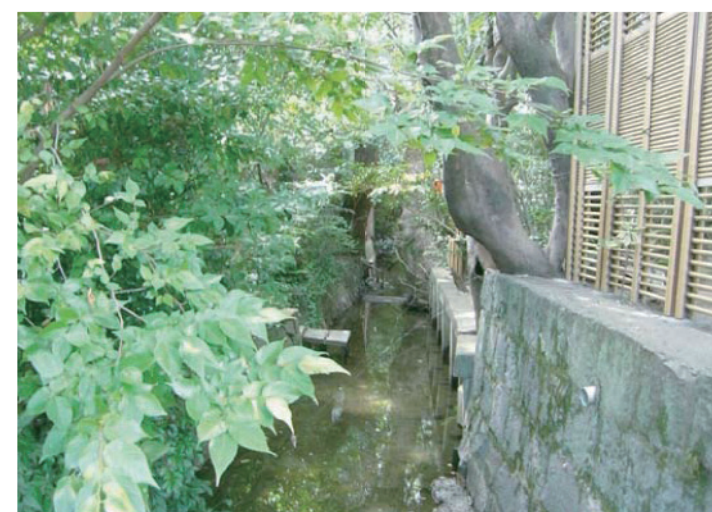
近代まで堀割は柳川に住まう人々に生活用水を提供し、住人の生活と密接に関わっていた。

上水道が整備された現在において、大きな堀割は川下りが行われ重要な観光資源となっているが、川下りのない小さな堀割は役割を失い人々の生活から切り離されたものとなっている。

そこで、小さな堀割の多くのこる柳河地区において、『堀割のある新たな生活スタイル』を提案する。



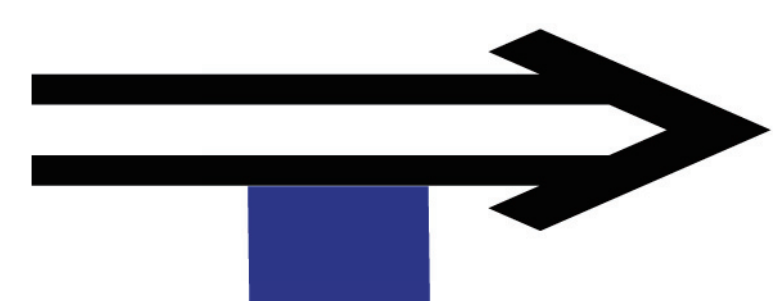
大きな堀割と川下り



小さな堀割

【CONCEPT】

細い堀割の多く残る
柳河地区



『柳川らしい生活』
を再構築

現代版『堀割のある生活』を提案

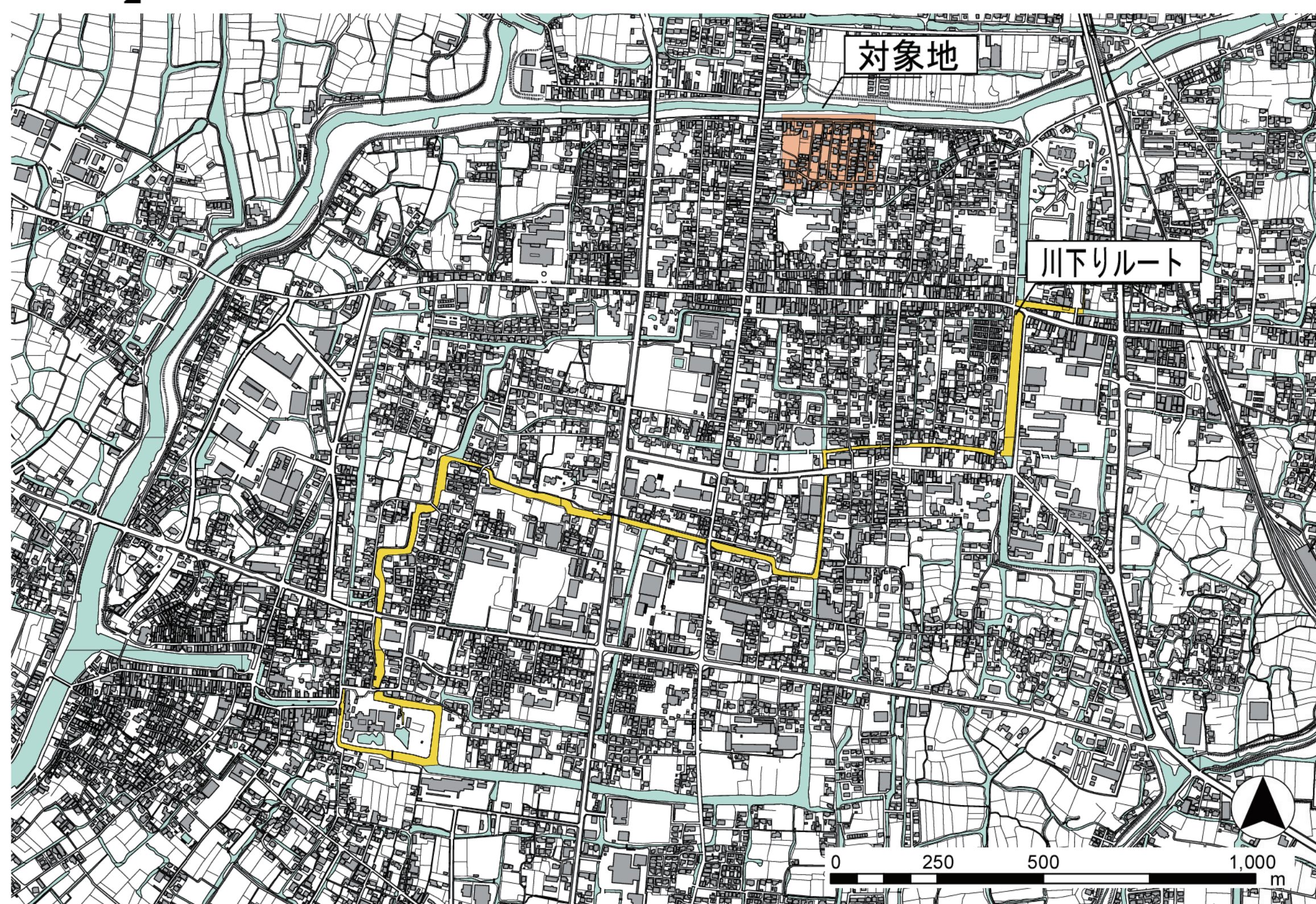
＜昔＞

[朝]水汲み
[昼]生活用水に利用
[夜]庭で浄化して排水

＜現代版＞

[朝]庭の家庭菜園や花壇に散水
[昼]庭でとれた野菜を食べる
庭の花や鉢植えを楽しむ
堀割でのコミュニティ形成
[夜]水辺で涼しく、寝床に着く

【SITE】



柳川周辺図 scale:1/10000

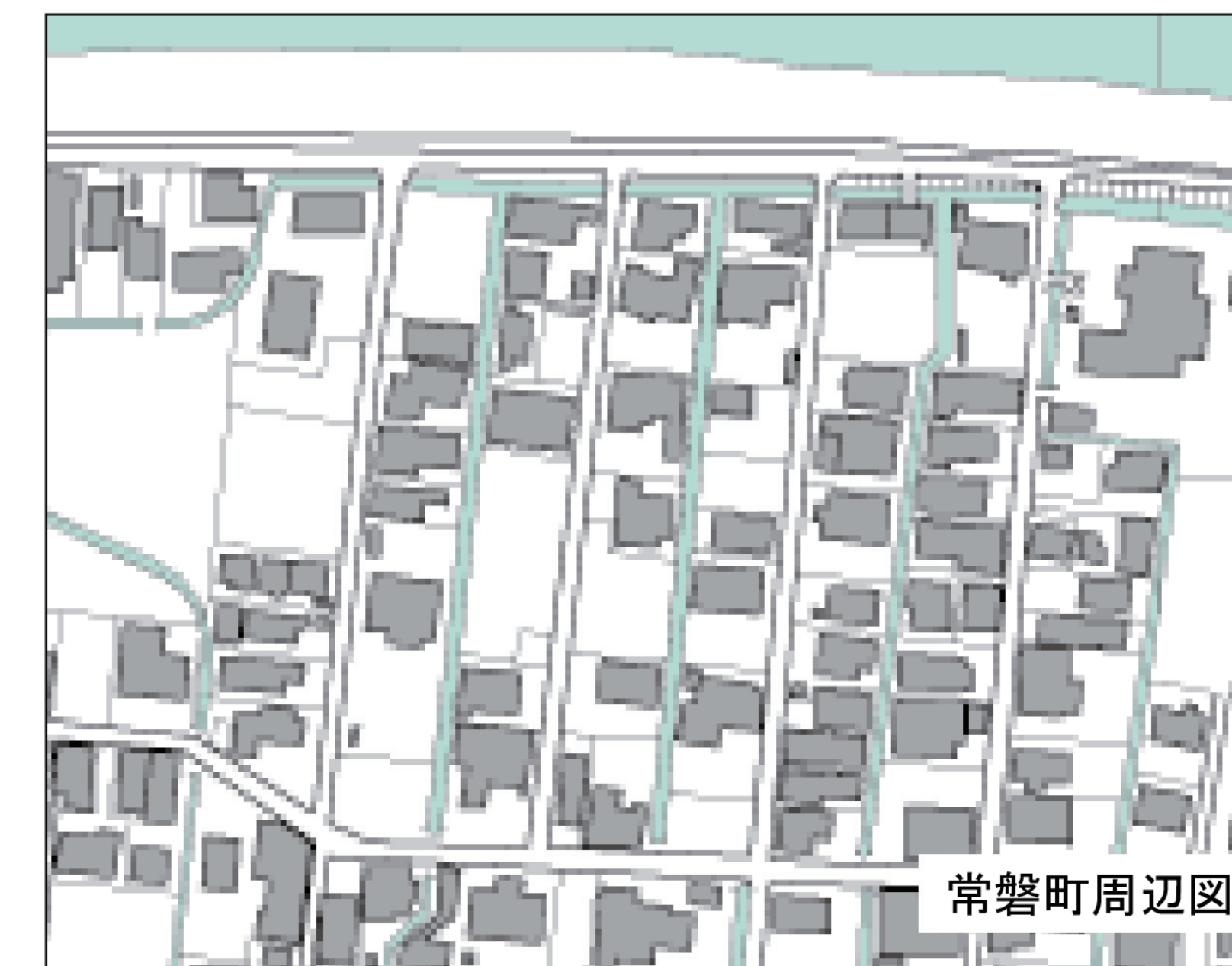
【柳河地区・常磐町】

柳河町・常磐町は、町人・下級武士の町として成立し、その町割りは、道路と堀割に面した敷地が短冊状に並ぶものであった。その後、宅地の田畑化、田畑の再宅地化、敷地の細分化・併合を経て現在に至る。

城内地区・沖端地区といった観光川下りルートのある地域からは離れた場所に立地している。



1. 細い水道
2. 現状の水路の様子。住宅とはブロック塀で分断され、向かい側には空き地がある。
3. 似つかわしくないアパート
4. 西覚寺と水路、常磐町の町並み



常磐町周辺図

【常磐町の現状】

〈現地調査結果〉

- 堀割と道路が交互に並んだ町で、各敷地は堀割と道路の両方に接している。
- 道路幅員は約4mと細く、平屋建てや2階建戸建中心のヒューマンスケールな町並みが広がる。
- 空き家・空き地が目立つ目立つ。
- 数個のアパートの立地が見られるが、他から浮いてしまっている。
- 堀割の幅は1～1.5mであり、ほとんどの住宅とはフェンスで切り離されている。
- 堀割排水路としてののみ利用されの水質は汚く、水量も少ない。流れもほとんどない状況。

〈ヒアリング結果（住民・柳川市役所・駅前不動産）〉

- 住民の堀割への愛着・執着は薄い。
- 年に1～2回の堀割清掃活動はある。
- 過疎化・高齢化が進んでいる。

	H.10年	H.19年
人口	273人	223人

新たな堀割のある住宅空間を提案し、堀割に魅力を感じて住んでもらう